

令和4年度
第8回市政モニターアンケート

防災に関する意識調査

北九州市広報室広聴課

目 次

I 調査の概要	1
II 市政モニターの構成	1
III 調査結果	2
(1) 防災ガイドブックや避難について	2
(2) 自主防災に関すること	16
IV 全体考察	26

I 調査の概要

調査対象者	市政モニター149人		
回答者数	140人（回収率94.0%）		
調査実施日	令和4年11月14日～令和4年11月28日		
実施方法	調査票による郵送及びインターネット調査		
調査実施課	北九州市広報室広聴課	Tel 582-2527	
調査依頼課	北九州市危機管理室危機管理課	Tel 582-2110	

II 市政モニターの構成

R4.11.14

区分	合計	男性	女性	区分	合計	男性	女性
全体	149 (100.0%)	64 (43.0%)	85 (57.0%)	区 別			
10歳代	2 (1.3%)	0 (0.0%)	2 (1.3%)	門司区	19 (12.8%)	10 (6.7%)	9 (6.0%)
20歳代	19 (12.8%)	9 (6.0%)	10 (6.7%)	小倉北区	28 (18.8%)	13 (8.7%)	15 (10.1%)
30歳代	22 (14.8%)	4 (2.7%)	18 (12.1%)	小倉南区	31 (20.8%)	12 (8.1%)	19 (12.8%)
40歳代	25 (16.8%)	11 (7.4%)	14 (9.4%)	若松区	11 (7.4%)	4 (2.7%)	7 (4.7%)
50歳代	23 (15.4%)	11 (7.4%)	12 (8.1%)	八幡東区	11 (7.4%)	4 (2.7%)	7 (4.7%)
60歳代	25 (16.8%)	13 (8.7%)	12 (8.1%)	八幡西区	37 (24.8%)	14 (9.4%)	23 (15.4%)
70歳以上	33 (22.1%)	16 (10.7%)	17 (11.4%)	戸畑区	12 (8.1%)	7 (4.7%)	5 (3.4%)

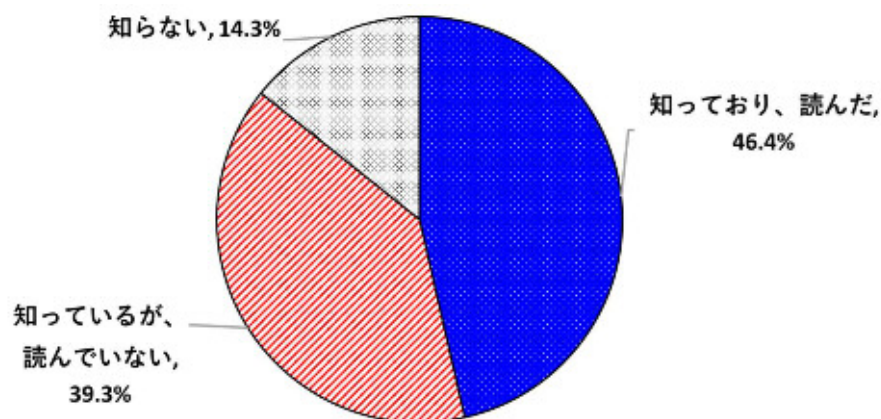
※モニター総数149名のうち郵送モニター24名、ネットモニター125名

※数値の単位未満は四捨五入を原則としましたので、総数と内容の合計は、一致しない場合があります。

Ⅲ 調査結果

【防災ガイドブックや避難について】

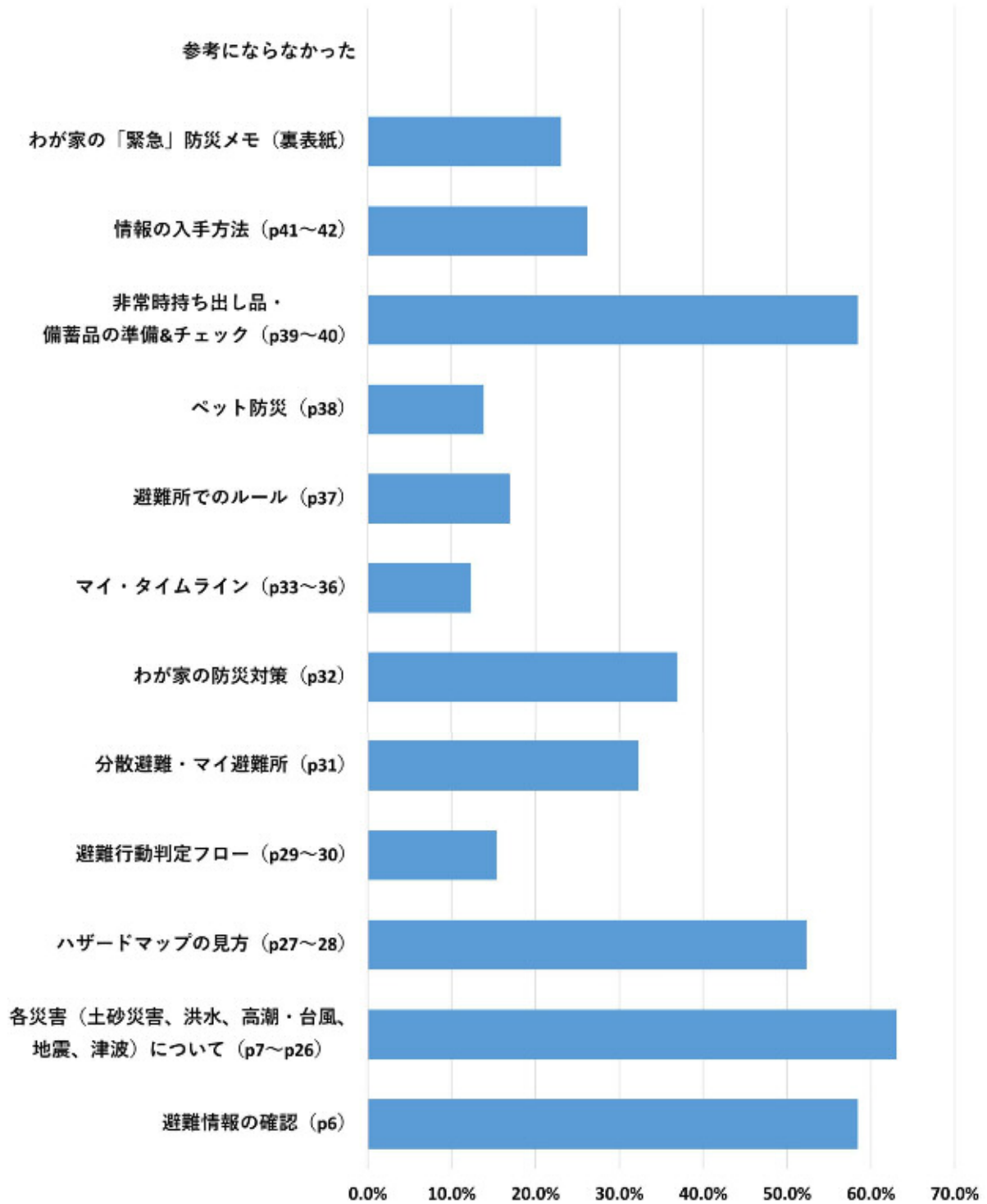
質問	令和3年度に改訂した防災ガイドブックとハザードマップを知っていますか。また、防災ガイドブックを読みましたか。
----	--



		回答者数	知っており、読んだ	知っているが、読んでいない	知らない
全体		140	46.4%	39.3%	14.3%
性別	男性	58	39.7%	48.3%	12.1%
	女性	82	51.2%	32.9%	15.9%
年齢別	20歳代以下	15	26.7%	40.0%	33.3%
	30歳代	22	40.9%	36.4%	22.7%
	40歳代	25	40.0%	44.0%	16.0%
	50歳代	22	54.5%	40.9%	4.5%
	60歳代	24	54.2%	33.3%	12.5%
	70歳代以上	32	53.1%	40.6%	6.3%
区別	門司区	18	22.2%	50.0%	27.8%
	小倉北区	25	60.0%	36.0%	4.0%
	小倉南区	28	35.7%	50.0%	14.3%
	若松区	11	63.6%	36.4%	0.0%
	八幡東区	11	36.4%	54.5%	9.1%
	八幡西区	37	51.4%	27.0%	21.6%
	戸畑区	10	60.0%	30.0%	10.0%

「知っており、読んだ」(46.4%)が最も多くなっています。知っている人が8割を超えています。年齢別にみますと、50歳代以上では「知っており、読んだ」と回答した割合が5割を超えています。

質問	<p>【防災ガイドブックを読まれた方（問3で「1 知っており、読んだ」と答えられた方）にお尋ねします。】</p> <p>どの項目（どのページ）が参考になりましたか。（複数回答可）</p>
----	---

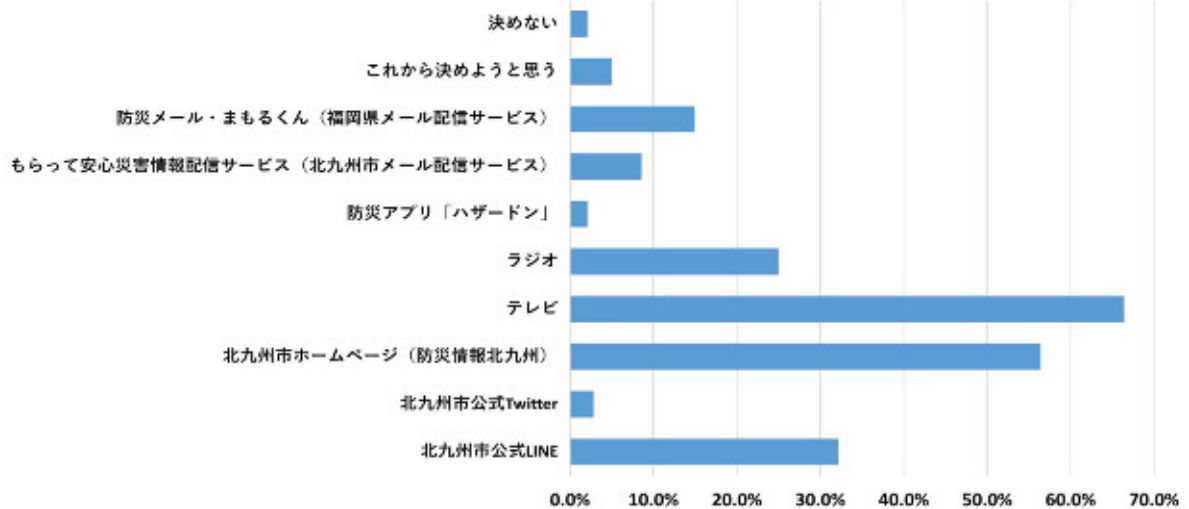


		回答者数	避難情報の確認	各災害（土砂災害、洪水、高潮・台風、地震、津波）について	ハザードマップの見方	避難行動判定フロー	分散避難・マイ避難所	わが家の防災対策
全体		65	58.5%	63.1%	52.3%	15.4%	32.3%	36.9%
性別	男性	23	52.2%	56.5%	60.9%	13.0%	34.8%	30.4%
	女性	42	61.9%	66.7%	47.6%	16.7%	31.0%	40.5%
年齢別	20歳代以下	4	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%
	30歳代	9	66.7%	66.7%	55.6%	0.0%	33.3%	44.4%
	40歳代	10	90.0%	90.0%	70.0%	20.0%	40.0%	50.0%
	50歳代	12	58.3%	33.3%	50.0%	16.7%	33.3%	33.3%
	60歳代	13	46.2%	69.2%	69.2%	23.1%	30.8%	23.1%
	70歳代以上	17	47.1%	70.6%	41.2%	17.6%	23.5%	35.3%
区別	門司区	4	25.0%	100.0%	75.0%	50.0%	25.0%	25.0%
	小倉北区	15	60.0%	66.7%	53.3%	13.3%	13.3%	26.7%
	小倉南区	10	50.0%	60.0%	60.0%	10.0%	40.0%	40.0%
	若松区	7	57.1%	71.4%	28.6%	0.0%	28.6%	42.9%
	八幡東区	4	75.0%	75.0%	75.0%	25.0%	50.0%	100.0%
	八幡西区	19	63.2%	52.6%	47.4%	21.1%	47.4%	42.1%
	戸畑区	6	66.7%	50.0%	50.0%	0.0%	16.7%	0.0%

		回答者数	マイ・タイムライン	避難所でのルール	ペット防災	非常時持ち出し品・備蓄品の準備&チェック	情報の入手方法	わが家の「緊急」防災メモ	参考にならなかった
全体		65	12.3%	16.9%	13.8%	58.5%	26.2%	23.1%	0.0%
性別	男性	23	17.4%	26.1%	13.0%	78.3%	26.1%	30.4%	0.0%
	女性	42	9.5%	11.9%	14.3%	47.6%	26.2%	19.0%	0.0%
年齢別	20歳代以下	4	25.0%	75.0%	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	9	11.1%	0.0%	0.0%	11.1%	22.2%	0.0%	0.0%
	40歳代	10	10.0%	30.0%	30.0%	80.0%	20.0%	10.0%	0.0%
	50歳代	12	8.3%	16.7%	16.7%	58.3%	33.3%	33.3%	0.0%
	60歳代	13	15.4%	15.4%	15.4%	53.8%	38.5%	30.8%	0.0%
	70歳代以上	17	11.8%	5.9%	5.9%	70.6%	23.5%	35.3%	0.0%
区別	門司区	4	25.0%	0.0%	0.0%	75.0%	0.0%	50.0%	0.0%
	小倉北区	15	6.7%	20.0%	13.3%	66.7%	13.3%	26.7%	0.0%
	小倉南区	10	0.0%	10.0%	10.0%	60.0%	40.0%	50.0%	0.0%
	若松区	7	14.3%	14.3%	0.0%	42.9%	28.6%	0.0%	0.0%
	八幡東区	4	25.0%	25.0%	50.0%	100.0%	25.0%	25.0%	0.0%
	八幡西区	19	21.1%	26.3%	21.1%	47.4%	31.6%	15.8%	0.0%
	戸畑区	6	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	33.3%	0.0%	0.0%

「各災害（土砂災害、洪水、高潮・台風、地震、津波）について（p7～p26）」（63.1%）が最も多くなっていました。「参考にならなかった」という回答はありませんでした。

質問 避難情報等の情報をどのような手段で入手するか教えてください。（複数回答可）



	回答者数	北九州市公式LINE	北九州市公式Twitter	北九州市ホームページ (防災情報北九州)	テレビ	ラジオ	防災アプリ「ハザードン」	もらって安心災害情報配信サービス (北九州市メール配信サービス)	防災メール・まもるくん (福岡県メール配信サービス)	これから決めようと思う	決めない	
全体	140	32.1%	2.9%	56.4%	66.4%	25.0%	2.1%	8.6%	15.0%	5.0%	2.1%	
性別	男性	58	29.3%	3.4%	60.3%	65.5%	32.8%	3.4%	12.1%	17.2%	5.2%	3.4%
	女性	82	34.1%	2.4%	53.7%	67.1%	19.5%	1.2%	6.1%	13.4%	4.9%	1.2%
年齢別	20歳代以下	15	20.0%	6.7%	46.7%	60.0%	20.0%	0.0%	0.0%	13.3%	6.7%	6.7%
	30歳代	22	54.5%	4.5%	54.5%	45.5%	13.6%	0.0%	4.5%	13.6%	0.0%	9.1%
	40歳代	25	36.0%	4.0%	68.0%	52.0%	12.0%	8.0%	0.0%	12.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	22	22.7%	0.0%	59.1%	72.7%	40.9%	0.0%	9.1%	13.6%	13.6%	0.0%
	60歳代	24	25.0%	0.0%	62.5%	75.0%	41.7%	4.2%	16.7%	16.7%	4.2%	0.0%
	70歳代以上	32	31.3%	3.1%	46.9%	84.4%	21.9%	0.0%	15.6%	18.8%	6.3%	0.0%
区別	門司区	18	22.2%	5.6%	66.7%	72.2%	22.2%	0.0%	11.1%	5.6%	11.1%	0.0%
	小倉北区	25	36.0%	4.0%	56.0%	68.0%	16.0%	4.0%	4.0%	8.0%	8.0%	0.0%
	小倉南区	28	21.4%	3.6%	53.6%	46.4%	25.0%	0.0%	3.6%	17.9%	0.0%	3.6%
	若松区	11	18.2%	0.0%	45.5%	81.8%	9.1%	0.0%	18.2%	18.2%	0.0%	0.0%
	八幡東区	11	54.5%	0.0%	45.5%	81.8%	27.3%	0.0%	36.4%	9.1%	9.1%	0.0%
	八幡西区	37	43.2%	2.7%	62.2%	73.0%	37.8%	5.4%	2.7%	18.9%	5.4%	0.0%
	戸畑区	10	20.0%	0.0%	50.0%	50.0%	20.0%	0.0%	10.0%	30.0%	0.0%	20.0%

「テレビ」(66.4%)が最も多く、次いで「北九州市ホームページ (防災情報北九州)」(56.4%)が多くなっています。40歳代以上では「決めない」と回答したのは0.0%であり、避難情報等の情報を入手する手段を決めている、またはこれから決めようとしていることがわかります。

質 問	避難情報等の情報を入手する手段として、問5に挙げたもの以外で、追加して欲しいツールがありましたら教えてください。
--------	--

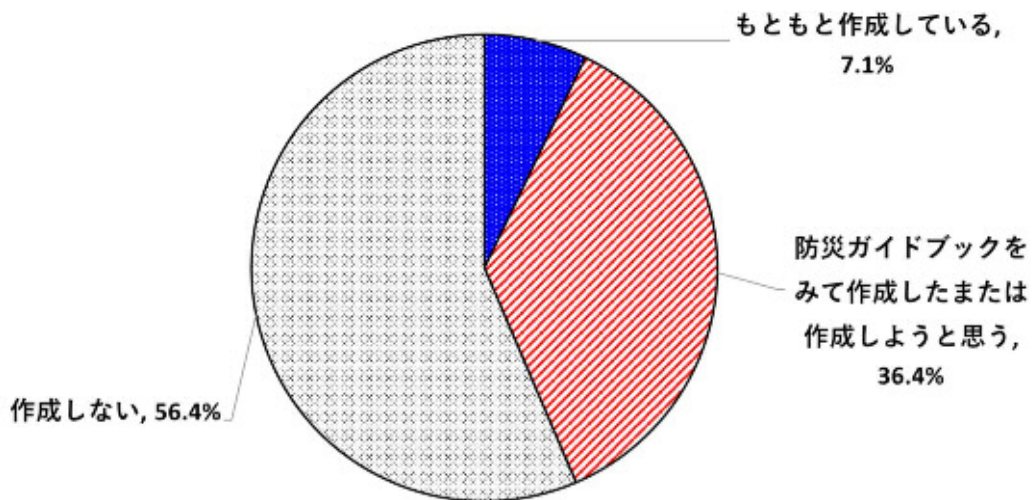
<回答>

- FACEBOOK。
- 町内からの情報。町内から良く気を付けてくれます。
- 先月からデンワを新しくしたのですが①とか②③等アプリもわからないし、TV以外で何かわかりやすいものがあるといいと思います。
- 町内会々長 もっと小さい組織の町内会組長からの情報、北九州市（防災チーム）→町内会長→組長の伝達組織をシステム化して住民への徹底。
- 高齢者で特に1人暮らしの方は地震や暴風時には不安でいっぱいだと思う。顔見知りの福祉協力委員か自治会の方からでも今の外の状況等を伝えるだけでも安心をするのでは。
- 市政だより。市民センターだより。
- 自治会の掲示板などに アバウトで無く細かく解りやすく、表示して欲しい。
- 広報車。
- 避難案内の車からの放送。
- テレビの避難勧告のテロップ。携帯 NHK 情報。
- 北九州市のラインやテレビを活用して避難情報を得ています。高齢者世代になるとテレビが主になると思うので、具体的、タイムリーな情報を共有出来たらいいと思います。
- 北九州市ホームページに、災害時のときの専用ページ。
- 宣伝カー。
- マイカーで非難したいときはどうすればよいか、情報があれば助かります。
- 耳が遠く、老眼で、デジタルに全く対応してない。高齢者（わが父が、そうなんですけど・・更に肢体不自由）、昔のポケベルのような感じで、メールのみ対応の単純明瞭な、スマホサイズの端末。
- 市政だより等広報誌の特集記事ではしっかり読んで情報を入手していますが、災害があまり起こりにくい地域にいるので、我が身のことという意識が少ないかもしれません。自治会や町会などでの具体的な勉強会や広報誌などでの周知が広がればいいと思いました。これは地道な活動ですが、配信メールなどタイムリーな情報は益々必要になってくると思います。
- データではなく冊子が欲しい。
- 通信網がアウトになった場合に出来る手段を考えてほしい。例えば、住民ネットワークサービス、町内会に匹敵すると思うが、現在は機能していないところや、町内会が無い地域

もあります。ヒューマンネットワークが大切だと思います。消防団や地域に一番多い商店など、例えば24時間営業店。である。

- アプリがあればいいと思う。
- Instagramも加えると良いと思います。
- ネット環境がなくても繰り返し放送してもらえる地元ならではのニュース番組があると嬉しい。
- 高齢者や情報が入手できない方には、地域のお知らせ方法があると良いと思います。
- ツールは追加希望はありません。むしろ、運用面で、タイムリーさ、図表で示す、冗長性のない表現でインフォームする、以上を希望します。
- 携帯でも、ガラケーなので年寄りにはスマホを使えてない人が多いので、わかりやすい方法があればいいなと思う。
- 広報車。
- Facebookによる通知。地震時に発報しているアラーム通知によるメール配信。

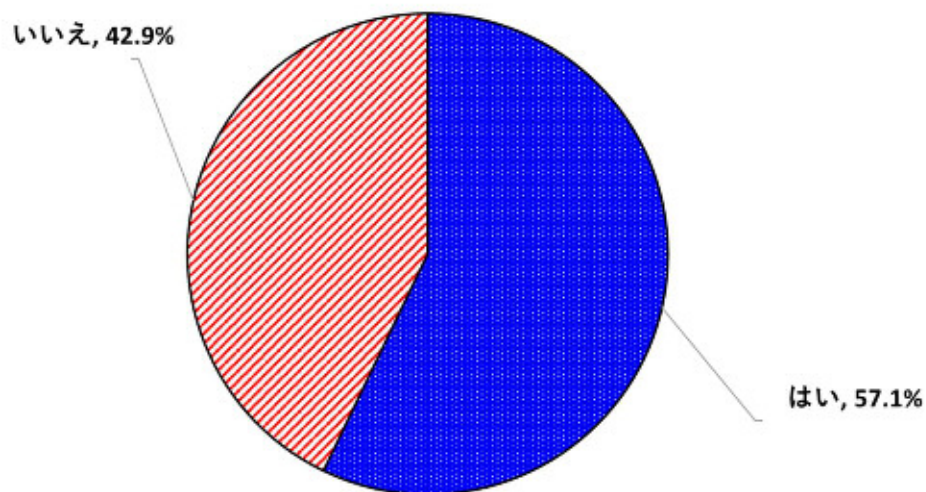
質問	マイ・タイムライン（わが家の避難計画）を作成しましたか。
----	------------------------------



		回答者数	もともと作成している	防災ガイドブックをみて作成したまたは作成しようと思う	作成しない
全体		140	7.1%	36.4%	56.4%
性別	男性	58	10.3%	37.9%	51.7%
	女性	82	4.9%	35.4%	59.8%
年齢別	20歳代以下	15	6.7%	20.0%	73.3%
	30歳代	22	9.1%	54.5%	36.4%
	40歳代	25	12.0%	28.0%	60.0%
	50歳代	22	9.1%	31.8%	59.1%
	60歳代	24	8.3%	33.3%	58.3%
	70歳代以上	32	0.0%	43.8%	56.3%
区別	門司区	18	0.0%	27.8%	72.2%
	小倉北区	25	0.0%	44.0%	56.0%
	小倉南区	28	10.7%	21.4%	67.9%
	若松区	11	18.2%	36.4%	45.5%
	八幡東区	11	18.2%	27.3%	54.5%
	八幡西区	37	5.4%	43.2%	51.4%
	戸畑区	10	10.0%	60.0%	30.0%

「作成しない」(56.4%) が最も多くなっています。「防災ガイドブックをみて作成したまたは作成しようと思う」が約4割となっています。「もともと作成している」、「防災ガイドブックをみて作成したまたは作成しようと思う」の割合を年齢別で見ると、30歳代が最も大きく、20歳代以下が最も少なくなっています。

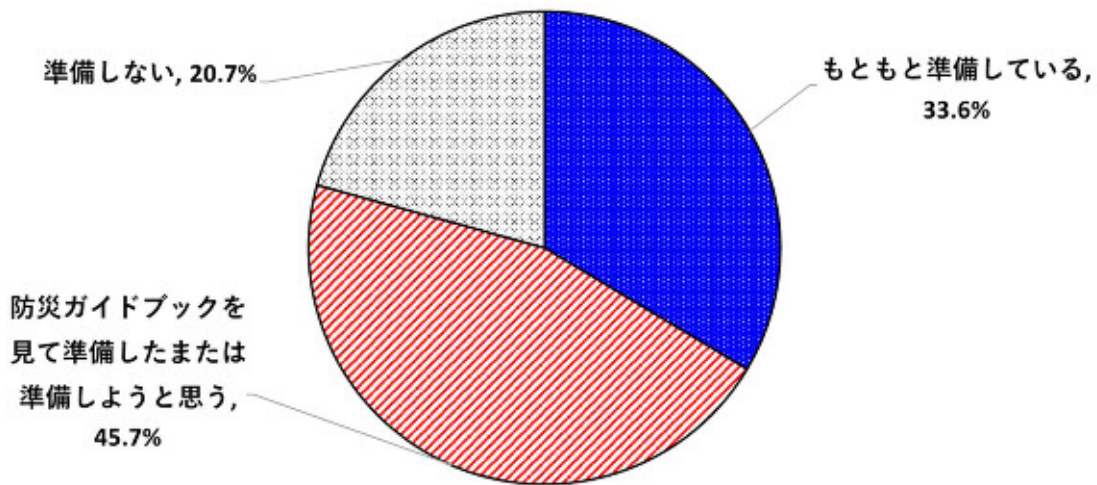
質問	避難について家族または地域で話し合いましたか。
----	-------------------------



		回答者数	はい	いいえ
全体		140	57.1%	42.9%
性別	男性	58	62.1%	37.9%
	女性	82	53.7%	46.3%
年齢別	20歳代以下	15	33.3%	66.7%
	30歳代	22	54.5%	45.5%
	40歳代	25	76.0%	24.0%
	50歳代	22	63.6%	36.4%
	60歳代	24	62.5%	37.5%
	70歳代以上	32	46.9%	53.1%
区別	門司区	18	27.8%	72.2%
	小倉北区	25	72.0%	28.0%
	小倉南区	28	50.0%	50.0%
	若松区	11	45.5%	54.5%
	八幡東区	11	72.7%	27.3%
	八幡西区	37	64.9%	35.1%
	戸畑区	10	60.0%	40.0%

「はい」(57.1%)の方が「いいえ」(42.9%)よりも多くなっています。年齢別にみると40歳代が「はい」(76.0%)の割合が最も大きく、20歳代以下が最も小さくなっています。

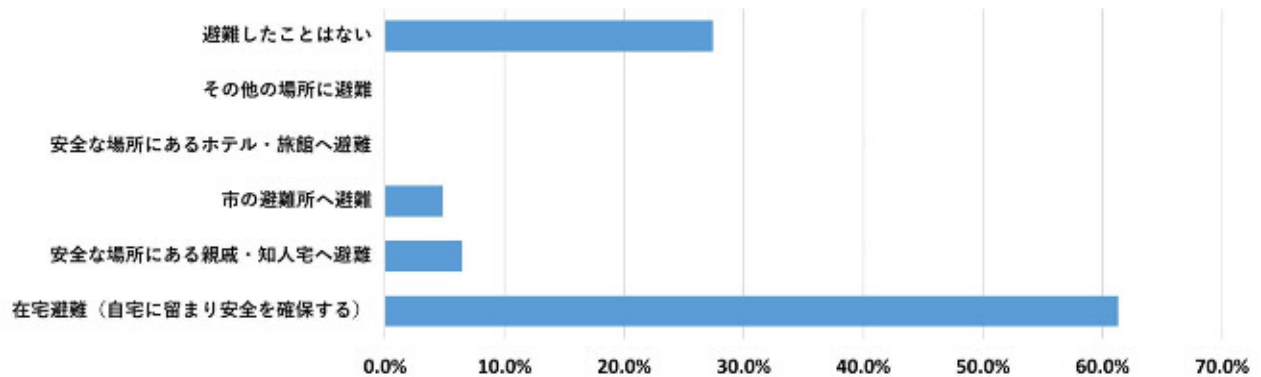
質問	非常時持ち出し品や備蓄品の準備をしていますか。
----	-------------------------



		回答者数	もともと準備している	防災ガイドブックを見て準備したまたは準備しようと思う	準備しない
全体		140	33.6%	45.7%	20.7%
性別	男性	58	36.2%	46.6%	17.2%
	女性	82	31.7%	45.1%	23.2%
年齢別	20歳代以下	15	33.3%	33.3%	33.3%
	30歳代	22	36.4%	40.9%	22.7%
	40歳代	25	32.0%	44.0%	24.0%
	50歳代	22	22.7%	59.1%	18.2%
	60歳代	24	29.2%	45.8%	25.0%
	70歳代以上	32	43.8%	46.9%	9.4%
区別	門司区	18	33.3%	55.6%	11.1%
	小倉北区	25	28.0%	56.0%	16.0%
	小倉南区	28	35.7%	32.1%	32.1%
	若松区	11	27.3%	54.5%	18.2%
	八幡東区	11	54.5%	27.3%	18.2%
	八幡西区	37	27.0%	51.4%	21.6%
	戸畑区	10	50.0%	30.0%	20.0%

「防災ガイドブックを見て準備したまたは準備しようと思う」（45.7%）が最も多くなっています。準備している、もしくは準備しようと思っている人は 79.3% となっています。

質問 【土砂災害警戒区域や浸水想定区域等、災害のおそれのある区域にお住まいの方にお尋ねします。】
昨年以前の避難行動について教えてください。



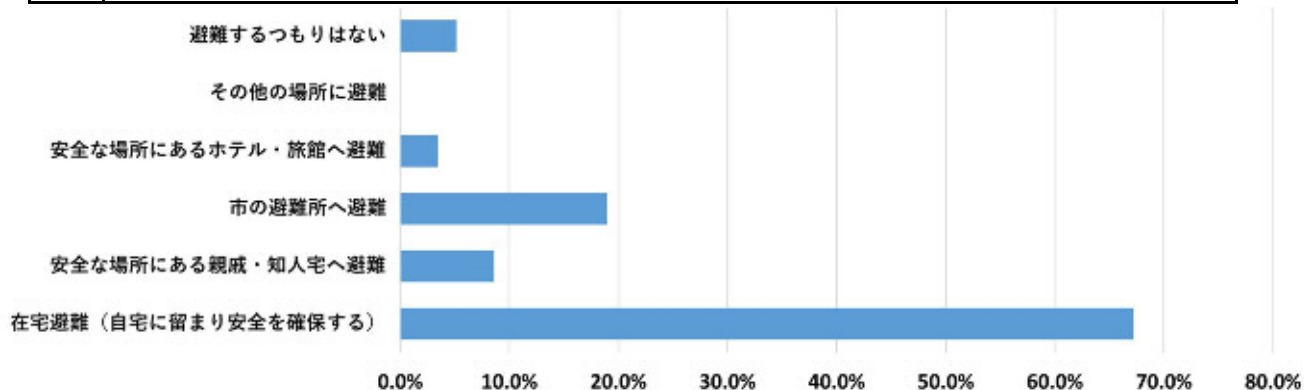
		回答者数	在宅避難 （自宅に留まり安全を確保する）	安全な場所 にある親戚・知人宅 へ避難	市の避難所へ 避難	安全な場所 にあるホテル・ 旅館へ避難	その他の 場所に避難	避難した ことはない
全体		62	61.3%	6.5%	4.8%	0.0%	0.0%	27.4%
性別	男性	28	57.1%	7.1%	7.1%	0.0%	0.0%	28.6%
	女性	34	64.7%	5.9%	2.9%	0.0%	0.0%	26.5%
年齢別	20歳代以下	6	50.0%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%
	30歳代	9	55.6%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%
	40歳代	13	61.5%	7.7%	7.7%	0.0%	0.0%	23.1%
	50歳代	8	75.0%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	12.5%
	60歳代	12	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%
	70歳代以上	14	57.1%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	35.7%
区別	門司区	10	40.0%	20.0%	10.0%	0.0%	0.0%	30.0%
	小倉北区	9	77.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%
	小倉南区	13	61.5%	7.7%	7.7%	0.0%	0.0%	23.1%
	若松区	3	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%
	八幡東区	6	83.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%
	八幡西区	14	57.1%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	35.7%
	戸畑区	7	57.1%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%

「在宅避難（自宅に留まり安全を確保する）」（61.3%）が最も多く、次いで「避難したことはない」（27.4%）が多くなっています。「安全な場所にあるホテル・旅館へ避難」と回答した人はいませんでした。

<避難したことはない理由>

- マンションの五階に住んでいるから。
- 団地の為かなり安全。
- 自宅のマンションが比較的新しく高層階であることから、自宅待機の方が移動して避難することよりも安全であると思われたから。
- 危険地域ではなかった。
- 災害の恐れ無しのため。
- 身の危険を感じたことが無い。
- 区域内ではなく近くですが今の住まいが一番安全だから。
- 最近では緊急避難警報が鳴ったりもするけれども、この地区に関してはとりたてて避難するほどの差し迫った状態にまでなっていないので避難したことはありません。地震も滅多にないし、台風もさほど影響したことがなく、大雨も無く、気分的には緩んでいるのかも知れない。気持ちを引き締めて罹らなければと思う。反省しきり。
- 死ぬなら自宅が良いと思うから。
- 避難場所が低い所にある。
- 避難の町ではあるが、ギリギリ丁目がかかっている為。

質問 【土砂災害警戒区域や浸水想定区域等、災害のおそれのある区域にお住まいの方にお尋ねします。】
防災ガイドブックを見て、今後どのような避難行動をしようと思われましたか。



		回答者数	在宅避難（自宅に留まり安全を確保する）	安全な場所にある親戚・知人宅へ避難	市の避難所へ避難	安全な場所にあるホテル・旅館へ避難	その他の場所に避難	避難するつもりはない
全体		58	67.2%	8.6%	19.0%	3.4%	0.0%	5.2%
性別	男性	27	63.0%	11.1%	22.2%	3.7%	0.0%	3.7%
	女性	31	71.0%	6.5%	16.1%	3.2%	0.0%	6.5%
年齢別	20歳代以下	6	50.0%	16.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	8	37.5%	12.5%	37.5%	12.5%	0.0%	0.0%
	40歳代	13	76.9%	7.7%	7.7%	0.0%	0.0%	7.7%
	50歳代	8	87.5%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	11	81.8%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	9.1%
	70歳代以上	12	58.3%	16.7%	16.7%	8.3%	0.0%	8.3%
区別	門司区	9	66.7%	22.2%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	8	87.5%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	12.5%
	小倉南区	14	78.6%	7.1%	14.3%	0.0%	0.0%	7.1%
	若松区	3	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
	八幡東区	5	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	12	50.0%	8.3%	33.3%	0.0%	0.0%	8.3%
	戸畑区	7	57.1%	14.3%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%

「在宅避難（自宅に留まり安全を確保する）」（67.2%）が最も多く、次いで「市の避難所への避難」（19.0%）が多くなっています。前問では「安全な場所にあるホテル・旅館へ避難」と回答した人はいませんでしたが、防災ガイドブックを見て、「安全な場所にあるホテル・旅館へ避難」をしようと思う人が増えています（3.4%）。

<避難したことはない理由>

- いろいろな病気がある。足が悪い。
- 自宅のマンション平地にあり頑丈な建物。
- 土砂災害と浸水の危険が低いところに住んでいるから。
- ペットがいるため、あと障害者がいる為。

<前問とのクロス集計>

		防災ガイドブックを見て、今後どのような避難行動をしようと思いましたが						
		回答者数	在宅避難 (自宅に留まり安全を確保する)	安全な場所にある 親戚・知人宅へ避難	市の避難所へ 避難	安全な場所にある ホテル・旅館へ避難	その他の 場所に避難	避難する つもりはない
回答者数		55	37	4	11	2	0	2
昨年以前の 避難行動について 教えてください	在宅避難 (自宅に留まり安全を確保する)	37	81.1%	0.0%	13.5%	5.4%	0.0%	2.7%
	安全な場所にある 親戚・知人宅へ避難	4	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	市の避難所へ 避難	3	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	安全な場所にある ホテル・旅館へ 避難	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他の場所に 避難	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	避難した ことはない	11	63.6%	0.0%	27.3%	0.0%	0.0%	9.1%

昨年以前は「避難したことはない」との回答でしたが、防災ガイドブックを見て避難しようと思っている人は、90.9%となっています。うち、在宅避難をしようと思っている人が63.6%、市の避難所へ避難しようと思っている人が27.3%でした。

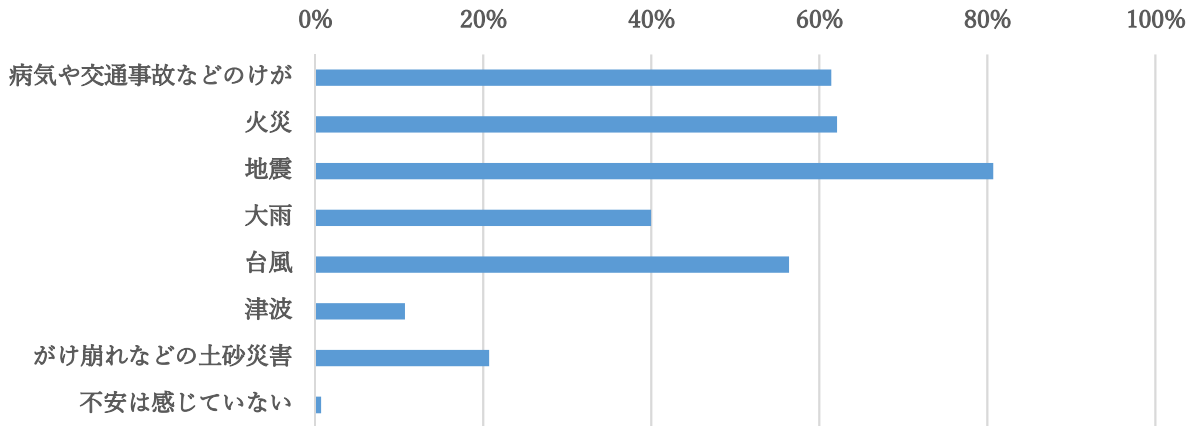
質問	防災ガイドブックで掲載して欲しい内容や要望がありましたら教えてください。
----	--------------------------------------

<回答>

- 保存食などについて、勉強したい。
- 確か10月前半頃配布されたと思うが、台風シーズン前の4～5月頃配布して欲しい。
- 指定されている避難所へ行くには年寄りだと20分はかかる。川と海が近い為地震等で潮位が上がると怖い。一時の避難先として高い建物やマンションを掲載して欲しい。受け入れも可能か否か。家族にも分かりやすいと思う。
- 避難所へ避難する手順を明示。避難所へ行っても開錠されていない時の対応は（開錠責任者は）。避難所満杯の時の対応はどうすべきか、野外避難所を利用することになるのか。
- 特に高齢者向けの情報（対策）。
- 簡単 明瞭に誰が見ても解りやすく記載してください。
- 避難所のおおよその収容人数。
- 給水車が来る場所。炊き出し場所。
- 地域に浸水した箇所があるのに反映されていないところがあるので地域住民に聞くなどして反映させてほしい。
- 防災ガイドブック自体はよくできていると思います。市政テレビ等でガイドブックの存在についてもっとPRしてほしい。
- 緊急で食料や水の配給がある場合の場所とその場所の拡充。
- 北九州市は地震はほとんどないし、台風も来る頃には勢力が衰えていて、それほど心配ではなく、ありがたいと思っています。竜巻もほとんど無いかも知れませんが、あれば被害は大きいと思いますので、竜巻に関する注意情報も掲載した方が良いでしょう。
- 救急医療に関する記述を増やしていただきたい。（そもそも電話が不通だった場合の対応など）
- 災害対応のガソリンスタンドや災害時に協力的なお店を掲載して欲しい。
- 障がい児者に対する受け入れ。トイレや、部屋など。
- 避難場所の規模(対応人数) や車いすや病人も受け入れ可能か否か
- 防災訓練などの情報、訓練開催計画の公示。自治体別の訓練や消防署による指導、体験など。

【自主防災に関すること】

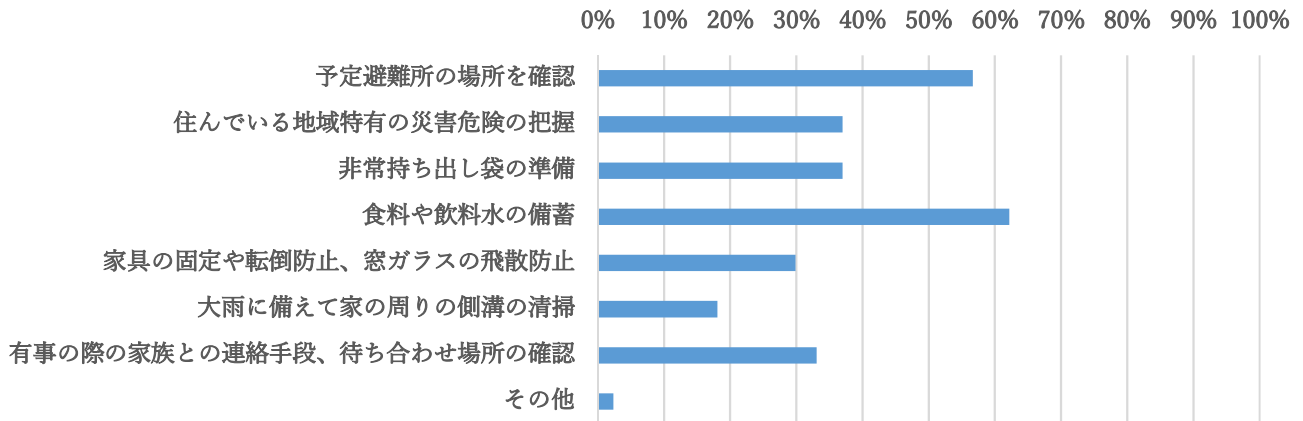
質問	あなたは、どのような災害等に不安を感じていますか。（複数回答可）
----	----------------------------------



		回答者数	病気や交通事故などのけが	火災	地震	大雨	台風	津波	がけ崩れなどの土砂災害	不安を感じていない
全体		140	61.4%	62.1%	80.7%	40.0%	56.4%	10.7%	20.7%	0.7%
性別	男性	58	60.3%	62.1%	81.0%	32.8%	51.7%	17.2%	17.2%	1.7%
	女性	82	62.2%	62.2%	80.5%	45.1%	59.8%	6.1%	23.2%	0.0%
年齢別	20歳代以下	15	66.7%	66.7%	66.7%	46.7%	60.0%	26.7%	40.0%	6.7%
	30歳代	22	54.5%	50.0%	95.5%	31.8%	68.2%	0.0%	18.2%	0.0%
	40歳代	25	52.0%	56.0%	84.0%	56.0%	52.0%	16.0%	32.0%	0.0%
	50歳代	22	77.3%	81.8%	90.9%	50.0%	59.1%	9.1%	22.7%	0.0%
	60歳代	24	66.7%	58.3%	75.0%	33.3%	62.5%	8.3%	12.5%	0.0%
	70歳代以上	32	56.3%	62.5%	71.9%	28.1%	43.8%	9.4%	9.4%	0.0%
区別	門司区	18	66.7%	38.9%	72.2%	33.3%	33.3%	22.2%	22.2%	0.0%
	小倉北区	25	52.0%	76.0%	88.0%	36.0%	52.0%	16.0%	24.0%	0.0%
	小倉南区	28	71.4%	57.1%	78.6%	53.6%	64.3%	3.6%	17.9%	0.0%
	若松区	11	45.5%	63.6%	100.0	36.4%	63.6%	27.3%	27.3%	0.0%
	八幡東区	11	45.5%	54.5%	72.7%	54.5%	63.6%	0.0%	27.3%	0.0%
	八幡西区	37	64.9%	70.3%	78.4%	37.8%	59.5%	2.7%	16.2%	2.7%
	戸畑区	10	70.0%	60.0%	80.0%	20.0%	60.0%	20.0%	20.0%	0.0%

日ごろから不安を感じている災害等については、「地震」（80.7%）が最も多かったほか、ほとんどの人（99.3%）が、何らかの災害に不安を感じている結果となりました。

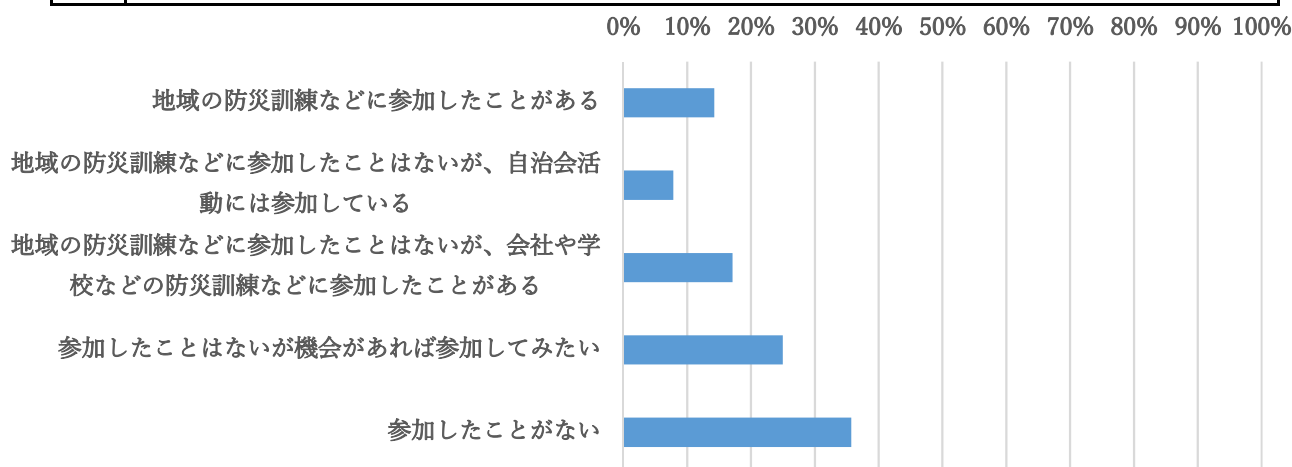
質問 熊本地震や九州北部豪雨など、避難を余儀なくされる大規模な災害が身近な地域で発生しており、北九州市内でも発生する可能性があります。あなたは、このような大規模な災害に備え、日ごろ家庭内で準備していることがありますか。（複数回答可）



		回答者数	予定避難所の場所を確認	住んでいる地域特有の災害危険の把握	非常持ち出し袋の準備	食料や飲料水の備蓄	家具の固定や転倒防止、窓ガラスの飛散防止	大雨に備えて家の周りの側溝の清掃	有事の際の家族との連絡手段、待ち合わせ場所の確認	その他
全体		127	56.7%	37.0%	37.0%	62.2%	29.9%	18.1%	33.1%	2.4%
性別	男性	54	63.0%	48.1%	44.4%	59.3%	27.8%	11.1%	31.5%	1.9%
	女性	73	52.1%	28.8%	31.5%	64.4%	31.5%	23.3%	34.2%	2.7%
年齢別	20歳代以下	10	40.0%	10.0%	30.0%	40.0%	20.0%	10.0%	60.0%	0.0%
	30歳代	19	68.4%	47.4%	42.1%	63.2%	26.3%	10.5%	26.3%	5.3%
	40歳代	22	59.1%	50.0%	36.4%	59.1%	36.4%	18.2%	54.5%	0.0%
	50歳代	20	60.0%	20.0%	50.0%	70.0%	35.0%	20.0%	50.0%	0.0%
	60歳代	24	58.3%	50.0%	37.5%	66.7%	33.3%	20.8%	8.3%	0.0%
	70歳代以上	32	50.0%	31.3%	28.1%	62.5%	25.0%	21.9%	21.9%	6.3%
区別	門司区	17	29.4%	35.3%	35.3%	70.6%	23.5%	23.5%	35.3%	5.9%
	小倉北区	24	58.3%	33.3%	45.8%	50.0%	37.5%	12.5%	37.5%	0.0%
	小倉南区	21	42.9%	38.1%	38.1%	76.2%	28.6%	19.0%	38.1%	0.0%
	若松区	9	66.7%	44.4%	22.2%	33.3%	44.4%	44.4%	0.0%	11.1%
	八幡東区	10	70.0%	30.0%	50.0%	70.0%	30.0%	10.0%	40.0%	0.0%
	八幡西区	37	75.7%	37.8%	29.7%	62.2%	29.7%	16.2%	32.4%	2.7%
	戸畑区	9	33.3%	44.4%	44.4%	66.7%	11.1%	11.1%	33.3%	0.0%

大規模な災害に備え、日ごろから家庭内で準備していることについては、「食料や飲料水の備蓄」（62.2%）が最も多く、続いて「予定避難所の場所を把握（56.7%）」が多くなりました。

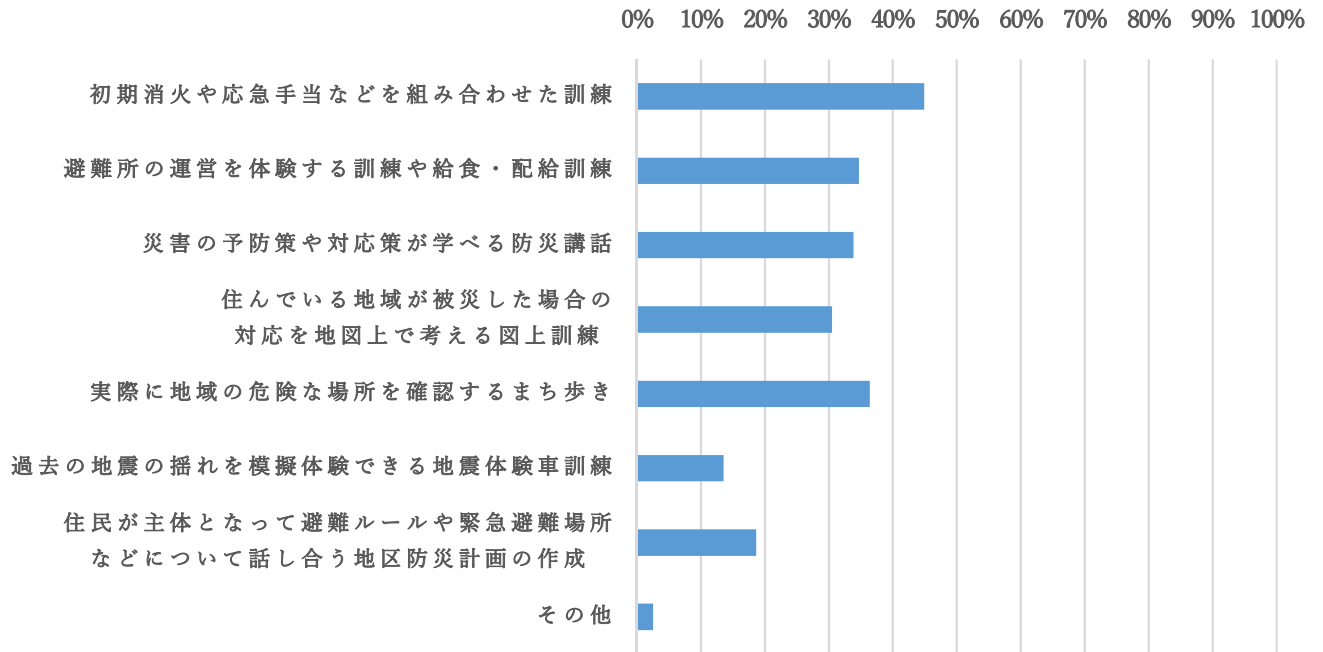
質問 北九州市では阪神・淡路大震災を教訓として、自治会を母体とする「市民防災会」を結成し、住民が主体となって自主防災活動に取り組んでいます。あなたは、住んでいる地域の防災訓練などに参加したことはありますか。



		回答者数	地域の防災訓練などに参加したことがある	地域の防災訓練などに参加したことはないが、自治会活動には参加している	地域の防災訓練などに参加したことはないが、会社や学校などの防災訓練などに参加したことがある	参加したことはないが機会があれば参加してみたい	参加したことがない
全体		140	14.3%	7.9%	17.1%	25.0%	35.7%
性別	男性	58	17.2%	8.6%	15.5%	25.9%	32.8%
	女性	82	12.2%	7.3%	18.3%	24.4%	37.8%
年齢別	20歳代以下	15	13.3%	0.0%	33.3%	13.3%	40.0%
	30歳代	22	4.5%	4.5%	13.6%	31.8%	45.5%
	40歳代	25	12.0%	0.0%	28.0%	24.0%	36.0%
	50歳代	22	18.2%	0.0%	18.2%	22.7%	40.9%
	60歳代	24	20.8%	20.8%	12.5%	20.8%	25.0%
	70歳代以上	32	15.6%	15.6%	6.3%	31.3%	31.3%
区別	門司区	18	11.1%	5.6%	16.7%	22.2%	44.4%
	小倉北区	25	12.0%	4.0%	24.0%	20.0%	40.0%
	小倉南区	28	10.7%	3.6%	21.4%	25.0%	39.3%
	若松区	11	36.4%	18.2%	9.1%	18.2%	18.2%
	八幡東区	11	18.2%	9.1%	9.1%	18.2%	45.5%
	八幡西区	37	10.8%	10.8%	18.9%	29.7%	29.7%
	戸畑区	10	20.0%	10.0%	0.0%	40.0%	30.0%

自治会の活動に参加したことがある人（7.9%）、会社や学校などの防災訓練に参加したことがある人（17.1%）は合わせて25.0%であったが、住んでいる地域の防災訓練へ参加したことがある人は14.3%でした。

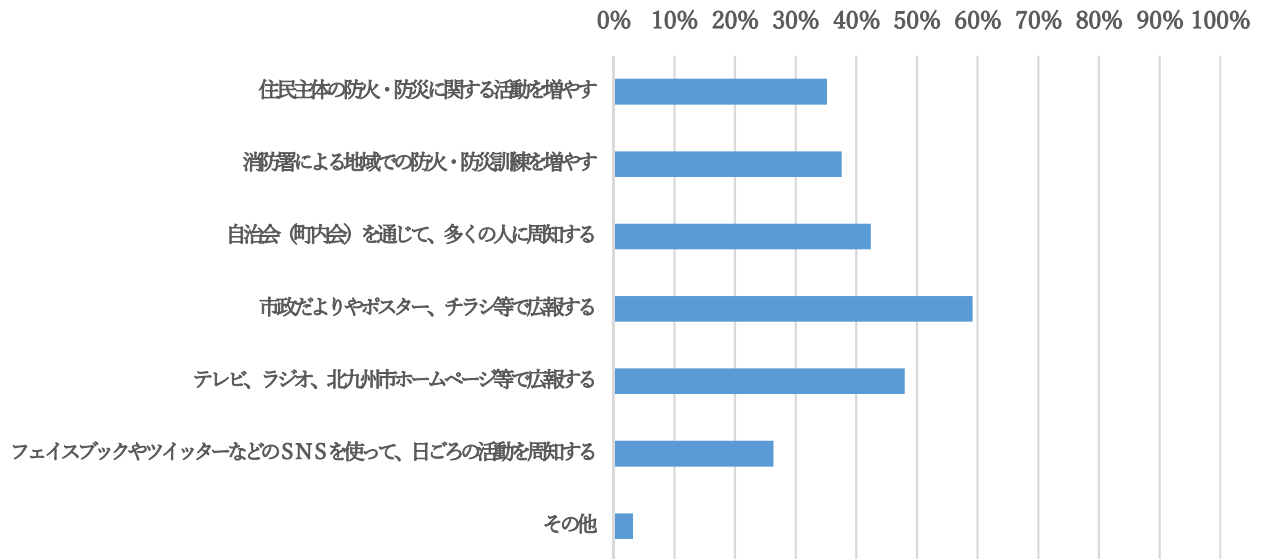
質問 「市民防災会」や地域の防災の取り組みなどで参加してみたいものはありますか。（複数回答可）



		回答者数	初期消火や応急手当などを組み合わせた訓練	避難所の運営を体験する訓練や給食・配給訓練	災害の予防策や対応策が学べる防災講話	住んでいる地域が被災した場合の対応を地図上で考える図上訓練	実際に地域の危険な場所を確認するまち歩き	過去の地震の揺れを模擬体験できる地震体験車訓練	住民が主体となって避難ルールや緊急避難場所などについて話し合う地区防災計画の作成	その他
全体		118	44.9%	34.7%	33.9%	30.5%	36.4%	13.6%	18.6%	2.5%
性別	男性	51	35.3%	37.3%	35.3%	29.4%	49.0%	13.7%	17.6%	3.9%
	女性	67	52.2%	32.8%	32.8%	31.3%	26.9%	13.4%	19.4%	1.5%
年齢別	20歳代以下	10	30.0%	30.0%	20.0%	20.0%	40.0%	10.0%	0.0%	10.0%
	30歳代	16	62.5%	43.8%	37.5%	25.0%	31.3%	18.8%	6.3%	0.0%
	40歳代	19	42.1%	26.3%	42.1%	26.3%	42.1%	15.8%	26.3%	0.0%
	50歳代	19	42.1%	47.4%	36.8%	42.1%	31.6%	15.8%	10.5%	0.0%
	60歳代	24	58.3%	33.3%	29.2%	33.3%	37.5%	16.7%	29.2%	0.0%
	70歳代以上	30	33.3%	30.0%	33.3%	30.0%	36.7%	6.7%	23.3%	6.7%
区別	門司区	15	20.0%	20.0%	40.0%	26.7%	60.0%	13.3%	6.7%	0.0%
	小倉北区	22	50.0%	36.4%	36.4%	31.8%	18.2%	9.1%	27.3%	4.5%
	小倉南区	23	43.5%	17.4%	17.4%	30.4%	30.4%	13.0%	17.4%	0.0%
	若松区	7	57.1%	28.6%	42.9%	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%	14.3%
	八幡東区	9	55.6%	55.6%	22.2%	11.1%	33.3%	0.0%	22.2%	0.0%
	八幡西区	33	51.5%	42.4%	36.4%	30.3%	42.4%	18.2%	21.2%	0.0%
	戸畑区	9	33.3%	55.6%	55.6%	22.2%	44.4%	33.3%	22.2%	11.1%

全体としては、「初期消火や応急手当などを組み合わせた訓練」（44.9%）が最も多くなりました。

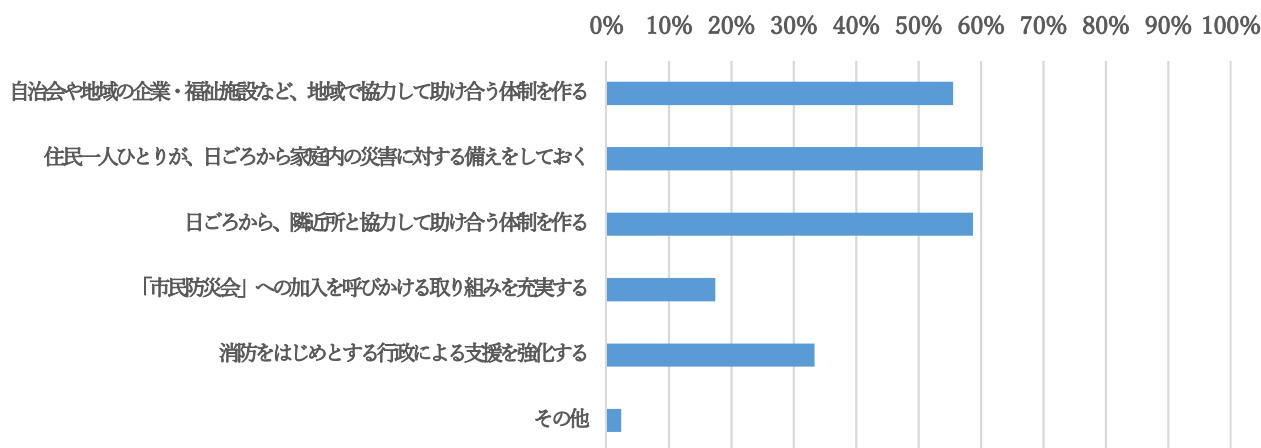
質問 自主防災組織である「市民防災会」をより多くの方に知ってもらい、自主防災活動に参加してもらうためにはどうすればよいと思いますか。（複数回答可）



		回答者数	住民主体の防火・防災に関する活動を増やす	消防署による地域での防火・防災訓練を増やす	自治会（町内会）を通じて、多くの人に周知する	市政だよりやポスター、チラシ等で広報する	テレビ、ラジオ、北九州市ホームページ等で広報する	フェイスブックやツイッターなどのSNSを使って、日ごろの活動を周知する	その他
全体		125	35.2%	37.6%	42.4%	59.2%	48.0%	26.4%	3.2%
性別	男性	53	32.1%	50.9%	45.3%	56.6%	41.5%	26.4%	3.8%
	女性	72	37.5%	27.8%	40.3%	61.1%	52.8%	26.4%	2.8%
年齢別	20歳代以下	11	18.2%	27.3%	9.1%	54.5%	63.6%	45.5%	18.2%
	30歳代	19	36.8%	21.1%	42.1%	47.4%	63.2%	47.4%	0.0%
	40歳代	20	55.0%	50.0%	40.0%	55.0%	35.0%	35.0%	5.0%
	50歳代	20	25.0%	45.0%	35.0%	60.0%	40.0%	35.0%	0.0%
	60歳代	23	34.8%	39.1%	56.5%	56.5%	52.2%	21.7%	0.0%
	70歳代以上	32	34.4%	37.5%	50.0%	71.9%	43.8%	0.0%	3.1%
区別	門司区	17	47.1%	35.3%	29.4%	58.8%	41.2%	11.8%	5.9%
	小倉北区	22	31.8%	45.5%	40.9%	50.0%	45.5%	31.8%	9.1%
	小倉南区	24	25.0%	29.2%	33.3%	62.5%	54.2%	25.0%	0.0%
	若松区	7	57.1%	71.4%	57.1%	42.9%	57.1%	0.0%	0.0%
	八幡東区	9	44.4%	33.3%	55.6%	55.6%	44.4%	11.1%	0.0%
	八幡西区	36	33.3%	36.1%	50.0%	69.4%	44.4%	38.9%	0.0%
	戸畑区	10	30.0%	30.0%	40.0%	50.0%	60.0%	30.0%	10.0%

全体としては、「市政だよりやポスター、チラシ等で広報する」（59.2%）が最も多かったが、20歳代、30歳代で見ると、「テレビ、ラジオ、北九州市ホームページ等で広報する」（20歳代63.6%、30歳代63.2%）、「フェイスブックやツイッターなどのSNSを使って、日ごろの活動を周知する」（20歳代45.5%、30歳代47.4%）と他の世代に比べ多くなっています。

質 問 阪神・淡路大震災では、建物に閉じ込められたりした人の多くが、近隣の住民などによって助け出されたと言われています。
いつ起きるかわからない大規模な地震や風水害に備えて、地域の自主防災力を高めるには、どのような取り組みが必要だと思いますか。（複数回答可）



		回答者数	自治会や地域の企業・福祉施設など、地域で協力して助け合う体制を作る	住民一人ひとりが、日ごろから家庭内の災害に対する備えをしておく	日ごろから、隣近所と協力して助け合う体制を作る	「市民防災会」への加入を呼びかける取り組みを充実する	消防をはじめとする行政による支援を強化する	その他
全体		125	55.6%	60.3%	58.7%	17.5%	33.3%	2.4%
性別	男性	53	62.3%	49.1%	66.0%	20.8%	28.3%	1.9%
	女性	72	50.7%	68.5%	53.4%	15.1%	37.0%	2.7%
年齢別	20歳代以下	11	33.3%	66.7%	33.3%	0.0%	41.7%	8.3%
	30歳代	19	36.8%	68.4%	57.9%	21.1%	36.8%	5.3%
	40歳代	20	60.0%	75.0%	55.0%	20.0%	30.0%	0.0%
	50歳代	20	50.0%	55.0%	70.0%	15.0%	50.0%	0.0%
	60歳代	23	78.3%	43.5%	56.5%	21.7%	26.1%	0.0%
	70歳代以上	32	59.4%	59.4%	65.6%	18.8%	25.0%	3.1%
区別	門司区	17	41.2%	64.7%	64.7%	17.6%	29.4%	0.0%
	小倉北区	22	54.2%	58.3%	54.2%	12.5%	33.3%	12.5%
	小倉南区	24	58.3%	70.8%	45.8%	12.5%	12.5%	0.0%
	若松区	7	71.4%	14.3%	57.1%	42.9%	42.9%	0.0%
	八幡東区	9	66.7%	55.6%	55.6%	11.1%	33.3%	0.0%
	八幡西区	36	57.1%	60.0%	62.9%	20.0%	45.7%	0.0%
	戸畑区	10	50.0%	70.0%	80.0%	20.0%	40.0%	0.0%

「住民一人ひとりが、日ごろから家庭内の災害に対する備えをしておく」（60.3%）が最も多く、次に「日ごろから、隣近所と協力して助け合う体制を作る」（58.7%）となるなど、自助、共助が必要だと思う人が多い結果となりました。

質問	最後に、防災についてご意見等ございましたらご記入ください。
----	-------------------------------

<回答>

- 台風、地震の情報を早く知らせて欲しいです。
- 住んでいる所が門司港なので、隣の下関から大雨や台風の避難メールが来るのですが、それが何度もくるので、こまっています。避難先が下関の地域なので、私たちにはどうにもなりません。
- 年長者が多いので参加しやすい活動を望む。隣近所の交流があまりないので、どうしたらよいか？
- スーパー、大型店舗等で最低必要な防災グッズ等、展示して関心を高める。雨季前には、洪水の被害等の映像を流し注意喚起する。
- 今回の意識調査の最大の欠陥は防災に対する地域助け合いの中で、また高齢化、少子化の中でコミュニケーションの強化が一番大事だと思う。防災優先ではなく、地域の間人関係、仲間意識、相互扶助の風土をつくる事が最大の防災対策であり防災ガイドブックでこの精神がぬけている事が問題と思う。
- 災害の少ない地域に住んでいて危機感を感じてない様な気がします。最近情報は早く入ってくる(台風等)し学校等は早い対応がなされている。住んでいる所が高齢化になり、日頃からの見まわりを強化して頂きたい。
- 皆様のお世話ができる体調ではないので(町内会長さんや近所の人はご存知なので)皆様について行こうと思っています(じゃまにならないように)。
- 自治会の未加入の方がいるので皆が加入して地域にどんな方がいるのか、知る事で皆が協力しあえると思う。
- 津波対策について 若松区内において、海拔0メートルの表示がある。避難所は海拔2-3メートルのところもある。避難所としては不適合ではないのか(例. 若松中央市民センター、若松中央小学校)。私達住民はまず高いところに避難する。若松中学校はすぐに満杯になる。満杯の判断は誰がするのですか。次の避難所は誰が決めるのですか。ハザードマップで必ず説明するようにして下さい。
- 非常持出袋は私は用意していない。同僚にも聞いたが用意していないと言う。何十年も被害にあっていないからだと思う。経験しないとしないと思う。
- 私の住んでいる団地は消火器は1台もない。どうしてかな？避難はしごの点検はあってます。シニアの方が多いい時代日頃から考えるとか近くの消防隊の方が指導するのもいいかも。
- 火災に対する、市の取みを強化する必要あり。旦過市場の火災、2回目は防げたと考える。
- 市民センターを中心に具体的な活動を実行する。学校を基盤に地域住民に呼び掛ける。従来

からの小学校中心の広報活動でなく、これまでとは違う大学(北九州市に多く在る)の理解と学生を含む大学側の積極的な取り組み対応に期待したい。住民票(学生)がなくても住んで居る人は運命共同体であるとの認識が求められている。

- 今のままで十分。
- TV で見たが、マニュアル通りに逃げても沢山の人が犠牲になったと…話していたのが気になった。その方は、足が悪く高齢で避難場所に行っても、階段があり皆に迷惑を掛けるので…考えて一人で山に向かい 難を逃れたとのことでした。自分を信じて行動するのも必要だと思った。私達は 2 人だけなので、離れ離れのときは自分で考えて行動する様に話し合っています。
- 大災害が起こった場合、避難所の混雑状況や施設の状況(仕切りや段ボールベッドの有無等)配給場所がわかるシステムを作してほしい。
- これまで大規模災害に遭遇して来なかったのですが、今後も発生することがないように願っていますが、いつ発生するかわからない大規模災害はとても恐怖や不安等を感じています。防災のマニュアルは配布された時は読みましたがその後は読んでいませんので、定期的に読む習慣をつけて、いざという時に適切な行動が取れるようにしたいと思っています。
- 北九州市では阪神・淡路大震災を教訓として、自治会を母体とする「市民防災会」を結成し、住民が主体となって自主防災活動に取り組んでいます。とあるが本当か？聞いたことがない。本当は市として何もしていないのではないか？
- 自然災害の場合、住んでいる場所、夫々の事情により災害時に無闇に移動しない選択肢もあることを周知しておく必要もあるかと思えます。
- マンションの定期点検、屋上、外壁の破損状況確認、住民の安全確認。
- 引っ越ししたばかりで、今地震が起きたら、という不安はあります。子供がいるので、なるべく在宅でと考えています。その際の備蓄や火事の時の対応など、マンション全体での訓練やシミュレーションがあれば、参加したいと思えます。また、自分の力が役に立てばいいなあと思えます。
- 北九州でも北朝鮮からのミサイル警報知らせるサイレンがあるのか？また実際自分のすんでいる地域まで聞こえるのか疑問。
- 自然災害だけでなく、ミサイルが飛んできたときはどうすればよいか、という議論や広報も進めてほしい。
- 自分自身意識の低さが拭えません。いざという時に、動けるようにしておかなければいけない、と強く思います。
- 町内会の会長を8年続けたが住民の防災意識向上に努力するもどれだけ理解いただけたか心配している。我が家は土砂災害の避難対象地域に指定されているが指定されたとの連絡を受けたことがない。避難場所は市民センターを中心に複数あるが絶対数(避難対象地域の住民数に対し)が足りないように思える。現実には警報レベル4で避難した我が町内は0人だが。
- インフラが正常なら大丈夫。水や食料も大切ですが最低限家族分のヘルメット 安全靴 革手

袋 ゴーグルは家に常備したい。

- 避難場所は、避難した人が快適に過ごせるようにしない限り、避難はしないと思います。実際の災害の際の避難行動について、テレビなどでの宣伝が必要だと思います。例えば、映画館などで地震や火災が起きた際、パニック状態になるのを防ぐにはどうすれば良いかとか、水のあふれた道路を歩く際の注意点とか、山や平地で雷にあったらどうするか、とか、とにかくこうするのは危険で、こうすべきという方法を理由とともに教えていただきたいです。
- 大雨に対するインフラ整備を進めてほしい。
- 防災では無いかもしれませんが、我が家の隣の家(一軒家)が天ぷら油の火の放置によって全焼。自分は仕事先で、その情報を得ましたが諸事情により、すぐに帰宅できず、不安でなりません。隣と、お向かいさんには『いざという時は、自分の携帯に電話して下さい』ち、携帯電話番号を伝えてましたが、当日連絡しても通じず、折り返しもない。その、数時間後・町内会長さんに個人情報の開示の依頼をした数軒先のオバチャンから着電、自分が帰宅できるまで、父を預かってもらうよう依頼しました。同じ町内でも、頼りになる(気を利かせることが出来る)方に現役世代への連絡先を覚えておくべきやな？っち、感じました。
- 一人一人が防災にもっと関心を持てば、もしもの時に必ず役に立つと思います。
- 防災訓練やイベント等の情報があまり SNS でまわってこない。イベント等も回数を土日など増やして欲しい。
- 地域で防災についての広報を始めたところです。災害の起こりにくい地域ではありますが、万が一に備え日頃の意識付けが大切です。目や耳にする機会が多いほど、意識も高まるのではないのでしょうか。町会など身近な地域での防災活動が良いと思います。
- 高齢者、障害者に対する支援まで手が回らないと思う。実際、大雨、台風などでは。自分のことで精一杯。
- 避難情報など防災メールを区ごとに発信してくれるのはありがたいです。しかし同じ区内でも本当に避難が必要な場所とそうでない場所もあり、不安になることがあります。雨雲データのように、避難が必要な場所を図面で確認できると判断しやすいのかとも思いました。
- 私の住んでいる地域は災害になりにくい地域だと思います。それでも台風の前には、窓にテープを張ったりしますし、非常持出袋は用意しています。また、水や食料は循環備蓄しています。家の中の家具の転倒防止をしなくてはならないと思いつつ、重い家具を動かして転倒防止をするのは大変です。有料でも家具の転倒防止をしてくれる業者等の紹介があれば良いと思います。北九州市は災害が少ないという安心感が、大きな災害になる可能性は否めません。いつでも災害に遭う可能性を認識して準備しておきたいと思います。
- 現在、私の住むマンションは築 30 年が過ぎ住んでいる方の高齢化が進み、自分自身も含め何か大災害が起こったときに対処出来るか心配です。八幡の西区のみならず八幡東区の高地に暮らす人達も高齢化が進み、この先不安だと思っています。市に望むのは高齢化したこの現状にいかなる対処してくれるのか。お願いしたい。防災意識はあってもいざというときの対処が出

来るのか心配です。

- 自宅や近隣での防災に関しては避難場所は理解しているが、自動車での移動中や仕事中的他所ではわかっていない。例えば携帯ナビゲーション上で、避難ポイントや経路誘導システムをアップして欲しいです。
- 防災に関連して、消防操法大会そのものの見直し(廃止)を検討していただきたい。消防操法大会のニュース、大会に出場されている方々の話を聞くとパフォーマンスを競う大会となっており、他の防災に関する取り組みに対して時間を有効に使っていただきたい。
- 災害がおこったときは、迅速な対応が求められるので、自分達の荷物などはしっかり用意したいと思います。また、赤ちゃんがいるため、授乳スペースやお湯が確保できる場所などの情報などもホームページや Twitter などでも流してもらえるとありがたいです。
- 個人への呼びかけも大切だが、学校、職場を通じての防災教室等の回数を増やす必要があると思われる。
- いざという時に動けない人が多いので、もっと危機感を普段から持って欲しいと思う。また、車椅子の方や障害を持っている方でお助けが必要な世帯を事前に周知しておいて欲しいと思っている。そうすると声かけもしやすくなる。
- 災害は忘れたころにやってきます。問16～18の各項目を継続して実施していくこと。また、新規のツールや手法等が開発されたときは、率先して導入していくことが重要だと考えます。(問16～18は、19～21ページにある質問のこと。)
- 以前大雨が降ると床下浸水する地域に住んでいて、瞬く間に水位が上がる川などの様子を知っています。川を見に行くな！と、テレビなどで何度も繰り返し伝えられているのに、いつも沢山の命が失われています。お年寄りの為には、地域の回覧板などで大雨、台風時は川に近づかない！毎年こんなに死亡者がいますよ！くらい、強い文章で、注意喚起してほしい。
- 今までは、あまり被害にあわなかったのが、特に気にしていませんでしたが、これを機会に家族で考えてみようと思いました。
- 災害ニュースを見ると「過去にこんなことはなかった」という方がほとんどです。自分たちには災害が起こらないとたかをくくっているのかもしれませんが、人命にかかわる災害から自身や家族、友人知人を守ることが重要です。行政が危険地域の改善や行動計画を指導することが必要と考えます。
- 経済的に備蓄等が難しい層へのボトムアップが必要であると考えます。

IV 全体考察

北九州市危機管理室では、防災に関する意識向上を図るため、様々な取り組みを行っています。その一つとして、いざという時に適切な判断・行動がとれるよう、さまざまな災害の特徴や避難のポイントなどを掲載した防災ガイドブックと北九州市で想定される土砂災害や洪水、津波、高潮の浸水想定区域や避難所などを掲載したハザードマップを作成しています。

本アンケートは、市民の防災に関する意識を調査し、北九州市のこれからの防災についての取組の検討の参考とするために実施したものです。

(1) 防災ガイドブックや避難について

・防災ガイドブックを「知っており、読んだ」(46.4%)または、「知っているが、読んでいない」(39.3%)と回答した方は85.7%となり、8割以上の方に認知されていました。今後も継続して認知度の向上に努めるとともに、読んでいただけるような取り組みを行っていく必要があります。

・マイ・タイムライン(わが家の避難計画)について、「防災ガイドブックをみて作成したまたは作成しようと思う」との回答が36.4%、非常時持ち出し品や備蓄品について「防災ガイドブックを見て準備したまたは準備しようと思う」との回答が45.7%となりました。また、「昨年以前の避難行動について教えてください。」と「防災ガイドブックを見て、今後どのような避難行動をしようと思いましたか」の両方の質問に回答した方を見ると、昨年度以前の避難行動で「避難したことはない」と回答していた方のうち、防災ガイドブックを見て今後避難行動をしようと思った人は90.9%でした(在宅避難:63.6%、市の避難所:27.3%)。令和3年度に更新した防災ガイドブック・ハザードマップによって、防災意識向上の効果がみられます。

・マイ・タイムライン(わが家の避難計画)については、「作成しない」との回答が5割を超えていました(56.4%)。災害において命を守る上で有力なツールであると考えられるため、作成率を上げる取り組みを行っていく必要があります。

・「昨年以前の避難行動について教えてください。」では「安全な場所にあるホテル・旅館へ避難」は0.0%でしたが、「防災ガイドブックを見て、今後どのような避難行動をしようと思いましたか」について、「安全な場所にあるホテル・旅館へ避難」が増えている(3.4%)ことから防災ガイドブックにより分散避難の認知度が向上したのではないかと推察されます。

・年齢別にみると、「マイ・タイムライン(わが家の避難計画)を作成しましたか。」や「避難について家族または地域で話し合いましたか。」の質問など、20歳代以下で実施率が最も低い項目が散見されました。若い世代への防災意識の向上が課題であると考えられます。

(2) 自主防災に関すること

・「どのような災害等に不安を感じていますか」という質問に対して、「地震」と回答した方が8割を超え、回答者のほとんど(99.3%)が、何らかの災害に不安を感じており、「大規模な災害に備え、日ごろ家庭内で準備していることがありますか」という質問に対しては、6割を超える方が「食料や飲料水の備蓄」(62.2%)と回答しています。

一方で、「あなたは、住んでいる地域の防災訓練などに参加したことはありますか」という質問に対しては、自治会の活動に参加したことがある人(7.9%)、会社や学校などの防災訓練に参加したことがある人(17.1%)が合計で25.0%であったが、住んでいる地域の防災訓練へ参加したことがある人は14.3%にとどまりました。

「自主防災活動」や「地域の防災訓練」の重要性を理解してもらうことが大切であり、このような活動に積極的に参加してもらえよう広報する必要があります。

・「市民防災会や地域の防災の取り組みなどで参加してみたいものはありますか」という質問に対して、「初期消火や応急手当などを組み合わせた訓練」(44.9%)が最も多く、災害発生後の対応に対する意識が高いことが分かります。

・「自主防災組織である「市民防災会」をより多くの方に知ってもらい、自主防災活動に参加してもらうためにはどうすればよいと思いますか」という質問に対して、全体としては、「市政だよりやポスター、チラシ等で広報する」(59.2%)が最も多くなっていますが、20歳代、30歳代で見ると、「テレビ、ラジオ、北九州市ホームページ等で広報する」(20歳代63.6%、30歳代63.2%)と「フェイスブックやツイッターなどのSNSを使って、日ごろの活動を周知する」(20歳代45.5%、30歳代47.4%)が他の世代に比べ多くなっており、様々なツールを使ってあらゆる世代に広報する必要があることが分かります。

・「いつ起きるかわからない大規模な地震や風水害に備えて、地域の自主防災力を高めるには、どのような取り組みが必要だと思いますか」という質問に対しては、「住民一人ひとりが、日ごろから家庭内の災害に対する備えをしておく」(60.3%)が最も多く、次に「日ごろから、隣近所と協力して助け合う体制を作る」(58.7%)、「自治会や地域の企業・福祉施設など、地域で協力して助け合う体制を作る」(55.6%)となるなど、自助、共助が必要だと思う方が多い結果となっています。

【市政モニターに関すること】

北九州市広報室広聴課 (Tel : 582-2527)

【アンケートに関すること】

北九州市危機管理室危機管理課 (Tel : 582-2110)